

村政運営

問 二期目の村政のかじ取りは

答 後援会と相談し強い意思を表明する



横田孝穂議員

【来年度予算編成】

問 任期は平成22年8月6日満了を迎えます。

二期目の村政のかじ取りを担当する決意は。

村長

未来に希望を明日に豊かさを感じることが出来る村づくり、観光立村白馬村の再構築のため、公約の実現に向けた村政運営に取り組んできましたが、まだ成果の出でない課題、また広域連合の事業である焼却施設建設、新たな行政区の設立、高規格道路の村内ルート決定等々、急がれる課題解決に全力で取り組みたいと考えてい

ます。態度表明については、その時期がくれば、後援会に相談し自分の意思を表明します。



白馬村役場庁舎

【給与・手当の適正化(減額)】

問 年度別減額制度の内容と節約額は。

村長

平成19年〜21年度減額率は村長25%、副村長・教育長14%を含め、過去8年間の減額措置、職員給与減額も、平成16〜21年度の6年間減額措置を行ってきました。給料減額は人事院勧告に準じたものではなく、職員に協力を求めてきた措置で、退職手当等への反映には問題があり、影響しないように対応しています。節約額は、特別職の報酬及び職員給与が8年間で2億3400万円、議員報酬が6年間で約1800万円です。新年度においても村特別職報酬等審議会に諮問したいと考えています。

問 定年延長と再雇用制度導入の計画は。

村長

現状では運用は行っていないと思います。人事院勧告の骨子からも理解されますが、すでに民間では65歳までの雇用確保が整っている企業もあり、今後は年金支給開始

年齢の支給に合わせ、定年年齢の段階的な延長や経験のある職員を再雇用する制度設計が計画される必要があると考えています。

問 平成20年度、滞納額

8億8356万円、不納欠損額9228万円であり、財政正常化は、こまめな徴収・納税相談・早めの差押え、効果が数字に表れるよう緊急の課題とすべきであると考えますが。

村長

納税相談・預金等調査・差押・公売の実施等により滞納金の徴収に努めています。徴収率が改善する状況には至っていない現状です。今後は、自主納付を推進することにより滞納金への対応強化を図っていき、村税納付の義務感について個々の感覚差があるとの不満を聞いておきます。自主納付の推進と税法に基づく早目の対応が公平性を保つことと考えています。